

保育者養成校におけるリズム指導の実践と考察

林麻由美

Practice and consideration of the rhythm instruction in childminder training

Mayumi HAYASHI

1. はじめに

筆者はこれまで10数年間にわたり保育者養成校でピアノ演奏、弾き歌いの指導を行ってきた。その際のリズム指導では、まず、学生自身に、または、筆者と一緒に1ト2トなど数えながら拍をとり、リズムをたたいたり弾いたりしてきた。クラシックピアノ専攻の筆者も同じ様な教育を受けてきた。しかし、数年前より筆者が受講しているジャズピアノ講座における、リズム演習を経験し継続することにより、これまで行ってきた方法だけでは十分なリズム指導にならないのではないかと、学生が保育現場で行う音楽活動にもっと近づいたリズム感をできるだけ早く身に付けてほしいと考え、まず、拍を聴く、すなわち連続して打たれている音を聴くことから始め、次にそれを聴きながら一緒にリズムをたたいたり、旋律や和音を弾く演習を提示した。また、それらの演習は断片的ではなく、一曲を通して行うことが必要であると考えた。クラシックのピアノ曲の演奏時には、メトロノームを曲を通して使用することはまずない。メトロノームは速さを決める時に用いるもの、と

して使用していた。。しかし、保育現場で多く触れるであろう曲のほとんどは2、4拍子系の躍動感のある曲なのでクラシックの演奏法ではなく拍のきざみにきっちりはめる演奏スタイルであると判断し、そのような演奏法をめざすため、授業において、メトロノームを多く用いて学生達に拍を聴いてもらい、また携帯電話にメトロノームのアプリを取り込んでもらい、拍を常に意識してもらうようにした。

2. ジャズピアノ講座におけるリズム演習

まず、筆者が受講しているジャズピアノ講座におけるリズム演習の一部を紹介する。資料Aにあるように、この演習は左手でベースラインを弾きながら①～⑯のように右手でバックイング（伴奏の意、通常は左手で弾く）を入れる演習で、必ずメトロノームを使用する。

バックイングは1拍目のアタマ、1拍目のウラ、2拍目のアタマ、2拍目のウラ、3拍目のアタマ、3拍目のウラ、4拍目のアタマ、4拍目のウラの8パターンある。①～⑧は1小節目にバックイングを入れ、2小節目は休み、

⑨～⑯は1小節目は休み、2小節目にバックキングを入れる。

これを12小節のコード進行を基本としたジャズのスタイルの1つであるブルースにあてはめたものが資料Bである。

2拍目のウラと3拍目のアタマにバックキングがある楽譜を例に挙げた。右手が休みの時は左手のベースラインとメトロノームのBeatのみになり、それを聴きながら右手は次のバックキングの準備をする。

この演習では、何拍目にバックキングを入れるのか、それがアタマなのかウラなのか、ということをよく認識することが必要でメトロノームのBeatを注意深く聴くようになる。

筆者はこの演習を通して拍に対する意識がずいぶんと高まったと感じるようになった。

そこでこの演習をもとに、メトロノームを使用するリズム指導を行った。

メトロノームを用いた授業展開に関して、本稿では今回、次の4曲のピアノ曲を取り上げた。

3. 授業における実践

(1) ♩ (四分音符) をどう感じて演奏するか。
「こいぬのマーチ」(譜例1)

四分音符を八分音符2つ分のBeatで感じて弾くことにより、正しいリズムで元気よくこの曲が表現できると考え、次のような練習方法を提示した。そしてその練習過程を授業内で一人一人確認した。

① テンポは♩ = 120と表示されているが、拍を倍にとり、♩ = 190~240に設定する。ウラ拍がはっきり聴こえることを

確認する。

② メトロノームのきざみを聴きながらまずメロディを歌う。その後、右手の練習をする。

③ メトロノームのきざみを聴きながら左手の練習をする。その後左手を弾きながら右手部分ドレミ唱で歌う。

④ 曲全体の雰囲気をつかんでもらうため、右手(学生) + 筆者の伴奏  の形で全体を通す。

⑤ 両手練習をする。ゆっくりから始めてメトロノームのきざみを聴きながら弾けるようになるまで、繰り返し弾く。

授業ではメトロノームを使用しての片手の演奏を必ずチェックして、学生がメトロノームのBeatに乗って弾けているかを確認した。その際、片手演奏においては、初心者であってもできるだけテンポ表示に近い速さまで繰り返し練習すること、と伝えた。これは、現場で実際に演奏するであろうテンポにたとえ右手だけでも近づけておくことで、その曲の持つ雰囲気を体得できるからである。

(2)  (付点四分音符) の理解への導き方
「バイエル48番」(譜例2)

① 左手の♩を♩ = 140位で弾く。3拍子なので、八分音符が1小節の6つ入る、これを6本の柱が立つとイメージする。メトロノームのきざみを聴きながら左手の四分音符を弾く。

② メトロノームのきざみを聴きながら右手メロディを歌う。付点四分音符のミの音を延ばしている時に八分音符3つ

ii. こいぬのマーチを使って既述したジャズピアノ講座のリズム演習を実践。

学生に演奏してもらい、筆者の指示により他の学生は1拍目だけ、2拍目だけ手拍子したり、1拍目と3拍目、だんだん難しくして1拍目と4拍目、という演習を行った。最初は拍のオモテのみ行うが、できるようになったら、1拍目のウラ、2拍目のウラなど、と指示を出す。また、「あなたは何拍目、あなたは何拍目」と担当する拍を指示して行うなど、こいぬのマーチだけでもさまざまな演習方法を授業で実践した。学生は自身で何拍目に手拍子するかという感覚を必死で持とうとする姿勢がみられ、拍に対する意識が高まってきたとみられた。

ピアノの授業は一コマ90分を半分にして3～4人で行うが、個人レッスンだけでなく、同じ時間を共有するグループ学習も効果的であると感じた。

こどもの歌の弾き歌いでも同じような演習が必要であると考え、以下の曲で実践した。

*アイアイ、線路は続くよどこまでも、おもちゃのチャチャチャ、ジングルベル、むすんでひらいて、手をたたきましょう、など。

iii. ピアノ曲でリズムアンサンブルをする。
「ブルグミュラー 25 の練習」より『アラベスク』を取り上げた。(譜例5)

非常にポピュラーな曲であるが、初級者が演奏するには大変厳しい。しかしながらバイエルの終了後に課題として課されるため必ず弾かなければならない。初級の学生がなん

とか最後まで弾けるようにしてくる努力は素晴らしいものである。難しい曲にチャレンジし、弾けるようになった、という自信はつくであろう。しかし、本当に曲を理解し、その曲を味わっているか、聴きながら演奏できているかといえば、それは怪しいと思われる。

そこで、その曲のリズムだけでも面白い、身体に残るようにしていけると、この曲に取り組んだ成果がより上がるのではないかと考え、学生6人を2つのグループに分け、それぞれ右手部分、左手部分のリズムをたたいてもらいリズムアンサンブルで全体を通した。

この結果、

- 曲全体の躍動感ある雰囲気がつかめた。
- 相手のリズムを聴いて合いの手を入れるように、自分がたたく箇所がある。
- 相手と同じリズムをたたく箇所がある。その時は全員がそろうようにするためお互いを見る。
- 最後の音は全員がそろうように誰かが合図する必要がある。

以上のようなさまざまなことが解ってきた。

この演習は保育現場における音楽活動において、非常に有効であると考ええる。

4. まとめ

以上4曲を取り上げたが、どの曲においても、学生にはたとえ初級者であっても片手、特に右手メロディについては、仕上がりテンポで弾けるまで繰り返し練習するように伝えてきた。それはその曲の持つ雰囲気、特に保

保育者養成校におけるリズム指導の実践と考察

育現場で多く取り上げられる躍動感のある曲をしっかりと体得しておく必要があるからと考えるからである。

たとえ、片手だけの演奏であっても適切なテンポできちんと拍をとり、正しいリズムで演奏していれば、充分表現でき、現場で通用する、と考える。

自身で正しく拍をとり、正確にリズムが演奏できるようになるためには、まず、連続してきざまれた拍を、断片的にはなく、曲1曲分を通して聴きながら演奏するところから始める必要がある。また、一人で演奏していても常に誰か（この場合はリズムをきざむドラムなど）と一緒にアンサンブルしているイメージを持つことが大切である。即ち、メトロノームのきざみを聴きながら弾くというのは、アンサンブルをしているという意識なのである。

このような演習を重ねていくと、次第にメトロノームなしでも、拍のきざみが身体の中で自然にイメージできて、正しいリズムで演奏できるようになる。

ピアノの基礎を学ぶ早い段階から、これらの演習が必要であり、鍵盤に触れる前にリズムをたたいたり、歌ったりすることにもっと時間をかけたほうがよいのではないか。乱暴な言い方になるが、身体にその感覚をたたき込む、感じ取らせることが大切なのである。学生の中には、次はどの指でどの鍵盤を打鍵するかということだけを必死で覚えてくる者がいる。その努力は素晴らしいが、ともするとその演奏は、ただ音が並んでいるだけなのである。そのようなアプローチでの演奏は現

場における音楽活動に対応できないであろう。学生の中には、今まで提示した練習方法を着実にこなした結果、拍の意識がかなり高まり、演奏にその成果が見られる者が多くいる。

今後も引き続きこの方法で授業を展開するとともに、更に保育者養成校での最終的な目的である「弾き歌い」に繋がられるような授業展開を探求していこうと考えている。

[参考 引用文献]

- 貴峰啓之 JAZZ BASIC MANUA 『リズム感超強制ギプス～バックギング編』 音楽之友社
幼稚園教諭 保育士養成課程『幼児のための音楽教育』教育芸術者
『バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社
『ブルグミュラー 25 の練習曲』音楽之友社

保育者養成校におけるリズム指導の実践と考察

資料 B

2拍のウラにバックングを入れる

Musical score for piano in 4/4 time, featuring a 2-measure backbeat pattern. The score consists of four systems of two staves each (treble and bass clef). The first system has four measures with F7 chords above the treble staff. The second system has four measures with Bb7, Bb7, F7, and F7 chords. The third system has four measures with Gm7, C7, F7 (with a 'to' symbol), and F7 chords. The fourth system is a Coda with two measures, each with an F chord. The bass line consists of a steady eighth-note pattern.

3拍目のアタマにバックングを入れる

Musical score for piano in 4/4 time, featuring a 3-measure backbeat pattern. The score consists of four systems of two staves each (treble and bass clef). The first system has four measures with F7 chords above the treble staff. The second system has four measures with Bb7, Bb7, F7, and F7 chords. The third system has four measures with Gm7, C7, F7 (with a 'to' symbol), and F7 chords. The fourth system is a Coda with two measures, each with an F chord. The bass line consists of a steady eighth-note pattern.

(譜例1)

●小犬のマーチ

外国曲



$\text{♩} = 120 \text{ くらい}$

(譜例2)

Allegretto.

48

(譜例 3)

Allegretto.

52

legato

1. 2.

(譜例 4)

Moderato.

88

dolce

7

3

2 1

2 1

1 2 1

f p

pp p

1. 2.

(譜例5)

Arabesque

アラベスク

2. Allegro scherzando ♩ = 152

p *p leggiero* *cresc.*

1. 2.

f *f*

dim. e poco rall.

in tempo *p* *cresc.* *p dolce* *ten.*

1. 2. *cresc.* *f* *risoluto*